嘉麻市社協だより
えがお
No.92
発行日/ 2013.10.1

社会福祉法人 嘉麻市社会福祉協議会
〒820-0205 嘉麻市岩崎 1143 番地 3　稲築住民センター内
TEL.0948-42-0751 http://kama.syakyo.com
FAX.0948-83-8005 info@kama.syakyo.com

福祉のまちづくりのために
～三日町で支え合いマップ作成へ～

平成25年6月から全5回で開催された福岡県社協主催の「支え合いマップインストラクター養成研修会」を職員2名が受講しました。その学びを生かそうと、9月4日（水）、嘉穂地区三日町の支え合いマップづくりを行い、人と人とのつながりを地図上に描いていきました。いろいろな発見があり、今後の活動につながる貴重な時間となりました。

今後もこのように地域に出向き、地域のつながりづくりを一緒に考えていきたいと思います。

これまで経験したことのない大雨～萩市災害ボランティアセンター～

平成25年7月28日、記録的な豪雨が萩市東部を襲いました。河川の氾濫や土砂崩れが発生し、国道、県道などの主要道路は通行止め、固定電話・携帯電話は機能せず、電気、上下水道のライフラインも止まるほどの状況で、1000世帯以上が全壊、半壊、床上・床下浸水等の住宅被害に遭われました。

氾濫した須佐川

（写真提供　萩市総務部広報課）

国道191号線が崩落

被災地復興のため、7月30日、廃校となった旧奈古（なご）高校須佐分校体育館に、萩市災害ボランティアセンターが立ち上がりました。災害ボランティアセンターとは、被災されて困った方たちを支援するために、困りごとの相談に応じたり、ボランティア活動の調整を行ったりするところで、萩市社会福祉協議会が運営主体となっています。

センターは、運営をとりまとめる「総務班」、ボランティアの登録や事務手続きをする「受付班」、被災者の困りごとを調査確認する「ニーズ班」、ボランティアと被災者をつなぐ役割を担う「マッチング班」、一輪車やスコップなど活動に使う資材を整備し、活動場所に合わせて準備する「資材班」、車の整備やボランティアの送迎をする「車輌班」、ボランティアの体調管理をする「救護班」と7班に分かれています。多い日には全国から700名を超えるボランティアが来られるため、運営側にも大勢のスタッフが必要となります。

地元小学校の児童や中学校、高校の生徒、婦人会の方たちがボランティアの受付をしたり、民生委員さんが現場まで道案内するなど、たくさんの方たちが運営をサポートされていました。社会福祉協議会の職員も、山口県社協をはじめとした県内社協だけではなく、鳥取県・島根県・広島県などの中国ブロック、九州からは、熊本市やうきは市、八女市、大野城市等の社協が応援に駆けつけました。本会も『受付班』と『資材班』に職員8名が交替で入り、また、現場でのボランティアが足りない時には、泥の除去等の作業も行いました。

受付班の様子

センターでは、来られたボランティアに受付で登録していただき、活動場所の調整後、必要な資材を持って、グループごとに被災された自宅や庭等で泥の除去やガレキ処理を行いますが、猛暑の上、被害もひどく過酷な現場が多いため、20～30人のグループで何日も作業しなければいけないほど難航していました。

しかし、毎日、開所と同時にたくさんのボランティアがお見えになっていて、会話の中から、地元の方だけでなく、東京や名古屋、大阪、そして、九州などから来られていることがわかりました。

また、家族旅行の予定を変更された家族連れや会社を休んでこられた方、夏休み期間中の小学生から大学生までの若い方たちなど、自分たちにできることがあればと時間を作って来られていて、汗や泥まみれになりながら一生懸命

作業に使う資材の準備

作業に取り組んでいるその姿にこみ上げてくる熱いものを感じました。8月30日までに活動されたボランティアの人数は、7400人を超えるそうで、そこにはたくさんの温かいつながりがありました。

今回は、水害という本市でもいつ起こってもおかしくない災害への支援活動に携わることで、あらためて、人と人とのつながりの大切さや日頃の備え、関係機関との調整の必要性を考えることができましたので、早速、その準備を進めていきたいと思います。

最後になりましたが、萩市の一日も早い復興を心からお祈りします。

活動を終えて帰ってきたボランティア

ボランティア不足の声に応えて　ボランティアバスの運行

本会では、8月24日(土)に、萩市災害ボランティアセンターにボランティアバスを出して、応援に行くことにしていました。しかし雨によりセンターが受入中止となったため、8月28日(水)に変更して、再度呼びかけを行ったところ、34名の参加がありました。嘉麻市の方だけではなく、本会のブログを見て、市外から参加された方もおられました。

午前6時45分に稲築地区公民館を出発し、萩市須佐(旧奈古高等学校須佐分校)に向かいました。初めて災害支援に参加する方が多く、「私で役に立てるかしら。」といった声を耳にしました。誰もが不安を抱えつつも、被災地のために何かしたいという思いで参加してくださったのだと感じました。センターに到着すると、慌(あわただ)しく受付けとマッチングを行い、4つのグループに別れて資材班でスコップなどの機材を受け取り、中畑地区、金井地区、上小川地区、須佐地区の民家へ向かいました。途中、崩壊した家屋やガードレール、流された木々、道路に放置されたままの歪(ゆが)んだ車などが目にとまり、被害の大きさをあらためて実感しました。

協力して土砂を土のう袋に詰める

ある現場では、裏山や庭に沢山の土砂が流れ込んでいました。早速ボランティアの方々は、スコップで泥を掻き出し、土のう袋に詰め運び出す作業に取り掛かりました。たくさんの土のうを作り、それを雨で削れてしまった所に積みあげました。土砂は赤土で重量があるため、体力を奪われましたが、みんなで声を掛け合い、休憩をとりながらの作業となりました。

当初家主の方は、緊張されている様子でしたが、作業の合間に経過の報告をしたり、被災当日の状況などを伺ったりするうちに、打ち解けることができました。作業終了後には、「ありがとう、助かりました。」と笑顔で言ってくださり、ボランティアのみなさんにも笑みがこぼれました。

センターで活動報告を行った後、地元の温泉施設で汗を流してから、帰路につきました。帰りの車中は、朝とは違ってみなさんの表情に、心地よい疲労感と充実感が漂っていて、「参加してよかった。またこうして支援に行くことがあればぜひ声をかけて欲しい」との声が聞かれました。

ご参加いただいたみなさま、本当にありがとうございました。

土砂の流入を防ぐため
土のうを積み上げていく

今回の支援活動にたくさんの方からご協力をいただきました。心よりお礼申し上げます。

個人ボランティア19名、嘉穂観光、白石電設、清浄学園、栄保育園、みどり保育園、田村環境開発工業　（敬称略・順不同）

「つながりや居場所の大切さを学ぶ」

9月3日(火)、碓井千歳会館大会議室で、平成25年度公開研修会を開催しました。

この研修会は、『居場所を探して 累犯障害者たち』(長崎新聞社「累犯障害者問題取材班」)という本を読んで、受刑者のなかには障がいをもった人たちがいるということや、累犯障がい者の多くが、「帰る場所がない」という動機で再犯を重ねていることを知り、この問題をつうじて、地域のつながりや関係づくりの必要性を学びたいという思いで企画したものです。講師の前田康弘さんは、社会福祉法人で唯一更生保護施設を運営する南高愛隣会『雲仙・虹』(長崎県雲仙市)の施設長兼保護司をされており、『居場所を探して ―累犯障がい者たち―』というテーマでご講演いただきました。当日は、障がい者福祉施設関係者、民生委員児童委員、本会の障がい児日中一時支援事業スタッフなど30名が参加しました。

前田さんは最初に、実態調査や研究をとおして、福祉の支援とつながらないが故に軽微な犯罪を繰り返し、刑務所に何度も入所している知的障がい者の方がおられること、また、その方にとってはそこが最後のセーフティネットになっている現実があることを話されました。

2009年4月に開設された『雲仙・虹』(定員20名)は、『司法から福祉へバトンをつなぐ架け橋』として、『地域生活の再スタート』という視点で運営されており、生活支援や就労支援に取り組まれています。この施設は、満期出所後、当座の衣食住に困り再犯に陥る心配のある更生緊急保護対象者の方が多く利用され、最長1年間の中で、様々な関わりをしています。特にこの方々は、これまで誰かに期待されるというような経験があまりないため、「ありがとう」や「すごいね」等の声かけを大切にし、得意なことや良いところに着目するようにしているそうです。また、誕生日や還暦などの人生の節目は、みんなで思いきり祝うようにされています。

さらに、『雲仙・虹』を退所したらその方との関係を終わらせるのではなく、定期的に便りを送ったり、つながりをずっと続けることにも取り組まれていて、それが孤立や再犯を防ぐことにもつながっていると前田さんは熱く語り、参加されたみなさんも深く頷かれていました。

前田さんのお話をつうじて、人が人として生きていくためには、誰かとつながり、帰る場所があること、また、社会の中で必要とされる存在であることが大切なことを改めて学び、そのような地域にしていかなければならないとの思いを強く持った研修会となりました。

認知症について学んで 不安を軽減

9月12日(木)、午後1時から山田ふれあいハウスで、在宅介護者の集いの勉強会を開催しました。

今回は「認知症について理解を深める」ことをテーマに、福岡県認知症医療センター見立病院から柴田亜希さん(精神保健福祉士)、知識裕子さん(精神科認定看護師)、宅間弘さん(臨床心理技術者)、宮田正弘さん(作業療法士)を講師にお迎えしました。

最初に柴田さんに、見立病院が県から認知症医療センターの委託を受けて、認知症に関するいろんな相談を受けていることなどをわかりやすくご説明いただきました。

続いて、知識さんは、認知症の方の気持ちの根底には不安があり、それに対してなんとか対処しようとすることで、幻覚や妄想、徘徊などの「周辺症状」が生まれることから、その症状を抑えるためには、まずその方が今どんな気持ちなのかを考えてみることが大切であることなどを話されました。

その後の茶話会では、それぞれが現在の介護の状況等を話されました。また、認知症と物忘れの見極め方や受診の勧め方、認知症検査の概要などについて質問がなされ、宅間さん、宮田さんをはじめとする講師の方々が丁寧に答えられました。

中でも、受診の勧め方については、「本人のプライドを傷つけないようになどと考えたら、なかなか難しいと思いますが、かかりつけ医から受診を勧めてもらうのも一つの方法だと思います」とわかりやすいアドバイスがありました。

最後に行った個別相談では、講師に悩んでいることや不安に感じていることを話され、参加者のお一人は、「最近、夜間に動き回ることが多くて、眠れずに困っていました。専門のスタッフの方に話を聞いてもらって、アドバイスもいただけたので良かったです」と話され、少し明るい表情で会場を後にされていました。

今月のご案内

おしゃべりサロン

○10月20日(日)
♪秋の公園
ピクニック♪
場所：稲築公園
お弁当、水筒、レジャーシートをお持ちください。

○11月20日(水)
♪スクラップブッキング♪
場所：碓井千歳会館
のり、はさみ、お気に入りの写真5、6枚をお持ちください。
※時間はいずれも10時～12時です。

在宅介護者の集い

○10月10日(木)
場所：寄ってこハウス

○11月14日（木）
場所：山田ふれあいハウス
※時間はいずれも13時～15時です。

ひきこもり家族の集い

○10月24日(木)
場所：寄ってこハウス

○11月28日（木）
場所：稲築住民センター
★11月は、ひきこもりに関する勉強会を開催します。
※時間はいずれも13時～15時です。

山田ふれあいハウス 閉館時間変更のお知らせ

平成25年11月1日(金)～平成26年3月31日(月)まで、閉館時間が午後5時までに変更となりますので、お知らせいたします。

お問い合わせ先：山田ふれあいハウス
上山田502番地6 ☎0948-52-1847

公開講座を開催します

この度、飯塚市・嘉麻市・桂川町社会福祉協議会の主催による公開講座を開催することとなりました。

この講座は、2000年5月3日に起きた「西鉄バスジャック事件」の被害者のお一人である山口由美子さん、子育てに悩む親の会の支援者である湯越由美子さんを講師にお呼びします。山口さんは、少年から10ヵ所以上も斬りつけられて重傷を負い、一緒に乗っていた恩師を失うのですが、被害者であるにもかかわらず、リハビリや治療に励んだ後、少年の心に寄り添おうと、支援者として親と子が学び育ち合う居場所を開設したり、子育てに悩む親の会の代表として活動されています。なぜ山口さんが支援者として活動されるようになったのか、その突き動かされた思い、活動されるなかで感じておられることを伺うとともに、湯越由美子さんからは、子育てに悩む親の会で活動されていることについてお話いただき、寄り添い共に歩んでいくこととはどういうことなのか、また、地域において必要な取り組みについて、みなさんと共に考えたいと思いますので、ぜひご参加ください。

日　　時	平成**25**年**11**月**15**日(金)14時～17時
場　　所	桂川町住民センター　２階　会議室
内　　容	「寄り添い、共に歩んでいくこととは」
講　　師	子育てに悩む親の会「ほっとケーキ」 不登校の子どものための居場所 「ハッピーバーグ」代表 山口由美子氏 親の会「ほっとケーキ」支援者 湯越由美子氏
参加対象	関心のある方
募集期間	平成２５年１０月１日(火)～１１月８日(金)
参 加 費	無料

お問い合わせ・お申込み先
嘉麻市社会福祉協議会 TEL：0948-42-0751　FAX：0948-83-8005

「読めば答えが見つかるかも」社協だよりクイズ

「広報紙えがお」を読んで、次のクイズにお答えください。正解者の中から抽選で2名の方に図書券（千円分）をプレゼントいたします。

？？？問題？？？

萩市災害ボランティアセンターは、7つの班に分かれましたが、ボランティアと被災者をつなぐ役割を担う班の名前はなんでしょうか。

(1)ニーズ班
(2)マッチング班
(3)受付班

●応募方法　①クイズの答え、②広報紙の感想、③郵便番号・住所、④氏名、⑤年齢、⑥電話番号をご記入の上、10月31日（必着）までにハガキ、またはEメールにてご応募ください。

●送付先　〒820-0205
嘉麻市岩崎1143番地3
嘉麻市社会福祉協議会
E-mail:tiki@kama.syakyo.com

●前号のクイズの答え　（3）
日中一時支援事業の夏の交流会で、絵本の読み聞かせ等をしたのは「朗読ボランティア福寿草」でした。

応募のあった方から社協だよりの感想をいただきましたので、紹介します。

・子育て情報が詳しく載っているので、興味深く読ませてもらっています。
・ためになる情報や、各地区の様子が分かりやすいです。

※当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

かまボランティア 市民活動センター情報

点訳の初歩を学びました

現在嘉麻市では、点訳サークルてんとう虫（代表 松下正良さん）が新聞の連載記事などを点訳した情報誌を作成し、必要とされる方に届けています。現在は５名で活動されていますが、新たなメンバーが増えず、体調不良で参加できない方もいて、一人ひとりの負担が増え、新たな要望に応えていくのが難しい状況が生まれてきています。

そのため、点訳を学んで、関心を持ってもらおうと、８月19日からの５日間、「てんとう虫」との共催による点訳講座を開催しました。高校生を含む４名が、「人のために何か自分にできることを見つけたい」、「点字を自分がやっているガイドボランティアに生かしたい」と、様々な動機で受講されました。

皆さんは、最初の３日間で点字の成り立ちや基本的なルール、さらに意味が通じやすいように文節ごとに区切っていく「分かち書き」の方法などを学び、残りの２日間は実際に例文の点訳作業を行いました。点字表を見ながら一文字一文字を打っていく作業は根気と集中力が必要であり、皆さんは真剣に取り組まれ、打ち終えたあとのホッとした表情がとても印象的でした。

５日間の講座を終えた受講者の方からは、「打ったり、読んだりできるようにもっと勉強したい」といった声も聞かれ、今後は点訳サークルてんとう虫の活動に参加しながら、勉強を続けていくことになりました。

ボランティア募集 ＊ イベント情報

秋祭りのお手伝い募集 ～シルバーケア嘉穂～

日時 平成 25 年 11 月 2 日（土）
9 時～ 15 時（短時間でも可）

場所 シルバーケア嘉穂
（嘉麻市鴨生 480-1）

活動内容 模擬店（たこ焼き・喫茶等）のお手伝い

募集人数 5 名程度（高校生以上）

募集締切 10 月 18 日（金）

備考 当日は動きやすい服装とエプロンの準備をお願いします。昼食は施設側で用意します。

※活動に際しては、事前登録、ボランティア活動保険への加入が必要です。

秋の感謝祭～善光会館稲築会場～

善光会館稲築会場では、地域の方々への感謝の気持ち込めたお祭りを下記のとおり開催します。

人形やぬいぐるみの供養祭、タオルや子ども服などのバザー、新鮮な野菜が格安で購入できる善光市、豪華な景品が当たるお楽しみ抽選会など、盛りだくさんの内容となっております。入場は無料で、どなたでもご参加いただけますので、ぜひご来場ください。

記

日　時　平成 25 年 10 月 20 日（日）
9 時 30 分～ 13 時

場　所　善光会館稲築会場（鴨生 277-17）

学習発表会～嘉穂特別支援学校～

嘉穂特別支援学校では、学習発表会を下記のとおり開催します。午前中は小学部、中学部、重複・訪問グループのみなさんによるステージ発表、午後からは、中学部の生徒のみなさんが作業学習で育てた野菜を使った漬け物、手作りクッキー、ローソク、窯業品などが販売されます。入場は無料となっておりますので、ぜひご来場ください。

記

日　時　平成 25 年 10 月 19 日（土）
9 時 20 分～ 13 時 30 分

場　所　県立嘉穂特別支援学校（鴨生 328-1）

お問い合わせ・お申し込み先：かまボランティア・市民活動センター　☎ 0948-42-0751

今月の一冊

ぼくとクマと自閉症の仲間たち

著　者／トーマス・A・マッキーン
翻　訳／ニキ・リンコ
出版社／花風社

この本との出会い―

本会の日中一時支援事業において、障がいのある子どもたちと関わる中で、もっとみんなを知り、仲良くなりたいと思うようになりました。特に、思いを上手く言葉にすることのできない自閉症の子どもたちがどんなことを思い、感じているのかということを知ることができる本を探していました。そこで出会ったのがこの『ぼくとクマと自閉症の仲間たち』です。

内容は―

この本は、自閉症と診断された成人男性の手記です。自閉症の症状や体験をつうじて感じてきたことが詳しく書かれています。著者であるトーマス氏が自閉症だと診断されたのは26歳のときでした。それまで彼は親や教師から『困った子ども』として扱われてきました。15歳の時より3年間は、周りの大人たちの手に負えないからと施設で過ごしました。その後学校へ行ったり、仕事をしたりしましたが、他の人と違った感覚を持つ自分について詳しく知りたいと思い、沢山の専門家を訪ね歩き、やっと答えを見つけました。そして自閉症児の親の会に参加したことをきっかけに、現在は自閉症について理解を広げるため、講演を行っています。

この本には、自閉症についての専門的な知識については書かれていませんが、当事者の素直な気持ちを知ることができます。自閉症の方全員に当てはまることばかりではないかもしれませんが、言われて嫌だったこと、嬉しかったこと、してほしかったこと、様々な思いが語ってあり、子どもたちと仲良くなるための大きなヒントになると感じました。また、自閉症の方に限らず、誰にでも「思いやりと品位と敬意を持って接すること」の大切さを自分自身に問うことのできる一冊です。

（川上）

11月の総合相談

法律相談は予約が必要です。先着順となっていますので、お早めにお申し込みください。

法律相談

と　き：11月7日（木）
13：00～16：00
ところ：山田ふれあいハウス

と　き：11月21日（木）
13：00～16：00
ところ：稲築住民センター

心配ごと相談

と　き：11月13日（水）
13：00～15：00
ところ：稲築住民センター

と　き：11月27日（水）
13：00～15：00
ところ：稲築住民センター

嘉麻市社会福祉協議会
☎0948-42-0751

炭鉱（ヤマ）の記憶

この左の写真は、筑紫地区にあった矢浜炭鉱の坑口で、昭和25年頃に撮影されたものです。写真提供者の浜崎由子さんのお父さんが矢浜炭鉱を経営していたそうで、坑口付近を案内していただきながら、当時の様子を伺いました。

矢浜炭鉱は、昭和初期の石炭産業全盛期に開業され、昭和31年に閉山しました。小規模な炭鉱ではありましたが、月間採掘量が福岡県で一番になったこともあるそうです。

▲矢浜炭鉱の坑口

また、「宵越しの金は持たない」と気前良くお金を使う炭鉱マンの話も伺いました。ご家族は、隣近所で味噌や醤油を借りたり、お金を工面したりと苦労しながらも危険と隣り合わせな仕事に挑む炭鉱マンを支えていました。

そのような炭鉱にまつわる話を伺いながら、炭住や豆炭工場、トロッコ線路、映画館等があった場所を歩いていくと、小さなボタ山や道に転がるボタがあり、面影はほとんどなくても当時の情景が浮かんでくるようでした。

▲この道がトロッコ線路でした

No.79

炭鉱時代の懐かしい写真や思い出などを募集しています。嘉麻市社会福祉協議会までご連絡いただければ幸いです。TEL0948（42）0751

みなさまの善意、心より厚くお礼申し上げます。

寄附・香典返し

8月1日～8月31日受付分

●香典返し

【漆生本村】
親族故 片峯フジ子様
親族故 片峯久美様
親族故 野見山松夫様
野見山フミ子様

【漆生中央】
親族故 藤井一俊様
藤井冨治子様

【漆生南部】
親族故 藤井たき子様
藤井政治様

【東岩崎】
親族故 中嶋正光様
中嶋チヅ子様

【山野第一】
親族故 武富富子様
武富将全様
親族故 熊井孝和様
熊井三徳様

【鴨生第二】
親族故 明比好満様
明比子様

【平第二】
親族故 大庭淑子様
大庭勝三郎様

【上臼井下】
親族故 廣田達哉様
廣田幸雄様

【下臼井東】
親族故 松岡弘子様
松岡久雄様

【西郷】
親族故 武田昭一様
武田浩一様

【百々谷】
親族故 佐野元紀様
佐野ヤマサヨエ子様
親族故 村川高夫様
村川様

【長野】
親族故 松藤順子様
松藤義雄様

【山下】
親族故 吉木兼弘様
吉木博様

【大隈】
親族故 田尻茂様
田尻キクヨ様

【中益】
親族故 平塚正善様
日永田フジヨ様

【上牛隈】
親族故 中島徹様
中島修様

【嘉穂才田】
親族故 川原田輝久様
川原田クスヨ様

【芥田】
親族故 松岡スミ子様
松岡雄司様

【西馬見】
親族故 縄田和之様
縄田松美様

【椎木】
親族故 田中和之様
田中良子様

●初盆返し

【漆生本村】
親族故 野見山千代子様
親族故 野見山正戸様
親族故 野見山俊男様
親族故 野見山俊一様
親族故 野見山重美様
野見山濱子様

【稲築才田】
親族故 大木俊子様
大木國利様

【口春】
親族故 安部厚一彦様
安部厚子様
親族故 山本栄一様
山本紀子様

【山野第一】
親族故 熊谷香壽美様
熊谷米博様

【西郷】
親族故 田中龍治嚴様
田中様

【神幸】
親族故 有吉章代様
有吉正敏様

【下宮】
親族故 林田一輝様
林田昌子様

【木城】
親族故 樋口えり子様
樋口齊藤公和様

【中山田上】
親族故 坂口繁夫様
坂口静様

【一般寄附】
嘉穂の名水愛好者一同様
福岡県軍鶏（日本鶏）保存会
松岡修　様、元永明　様
旧稲築町
稲築中央国民学校（小学校）
同期会　ぎんなん会　様

【子育てリユース】
漆生本村　松熊敦子様
漆生中央　塚崎有記様
口春　安部栄子様
上牛隈　松尾千子様
下牛隈　吉岡知子様
下牛隈　梶原真理様
下牛隈　森田雅代様
下牛隈　広瀬順子様
桂川町　岡本千郷様

【アルミ缶】
漆生本村　松熊彩香様
漆生本村　松熊涼太様
漆生南部　市原登志彦様
漆生南部　西岡聖様
東岩崎　松岡光様
鴨生第一　花村誠市様
鴨生町　福澤和代様
飯田　匿名様
熊本　中島政美様
下臼井東　匿名様
百々谷　橋本利根様
中央　稲葉幸作様
宮吉　匿名様
三日町区

【リングプル】
西岩崎　渡辺トシ子様
山野第二　古賀絹江様
鴨生町　福澤和代様
緑ヶ丘　篠原文子様
下臼井東　匿名様
熊ヶ畑第一　笹尾五重様
木城　栗原伊織様
木城　栗原伊吹様
木城　樋口えり子様
大橋　姉川亮太様
上西郷　有田和也様
嘉穂洋瓦(有)様
琴平陶芸サークル様
長円寺仏教婦人会様
嘉穂手話の会様

【古切手】
西岩崎　渡辺トシ子様
新山野　大久保宏子様
熊ヶ畑第一　笹尾五重様
手話の会様
税務課市民税係様
嘉麻市福祉事務所様
㈱トモス様
嘉麻市商工会様
嘉麻市役所高齢者介護課様
嘉穂手話の会様
山田手話の会様

【使用済テレカ】
嘉麻市商工会様

あなたの会費が、社協の地域活動を支えています

会員として、次の方々にご加入いただきました。
（敬称を省略させていただきます）

8月1日～8月31日受付分

〈漆生本村〉芳野良子
〈漆生中央〉福田隆光、岩永チヨ子、加地積、中野カナメ、中野恭介、渡邊澄子、鳥越正克、藤田久子、福岡茂、古後重子、古後政実、伏貫哲雄、秋穂験師、壁屋誠二、大森聖也、中並龍雄、松原幸、中山文男、山下剛、石川忠利、野口国雄、7組（三口）、匿名（二口）
〈鴨生第一〉伊藤喜代益
〈鴨生第二〉鴨生第二行政区（二十口）、富崎清子（二口）
〈枝坂〉山口俊男
〈百々谷〉坂本崇、龍恒子（二口）、龍美恵子（二口）、龍忠雄、武本ハルエ、中園晴美、中園千歳、長田京子、長田勝、松田伸子、児玉ふみ子、児玉孝幸、毛利栄子、小田博幸、村上ユキ子、古賀マサ子、篠原喜代子、西芳子、西村久美子、西村信也、田中清美、日野和義
〈尾浦第一〉青井志磨子、松隈ますみ、中村道彦、角貴久子、佐伯時子、筒井延彦、松岡忠夫、森山智恵子、福田タカエ、田尻アヤミ、筒丸一夫、石井元彦、加藤民子、栗山光子、田中淳、石内篤子、萩尾征男
〈西川〉花田勝美、花田清寿、中村操、松吉美和子
〈木城〉小山寧子、水之江文子、小山一識、水之江哲実
〈原町〉高野敏寛、高倉純子、山木正夫、松井弘憲、松岡平、寺田守、寺田和子、國本美紀子
〈中山田上〉松岡マスヨ
〈石ヶ崎〉丸山みさ
〈下益〉伊藤惠美香
〈千手〉森美子
〈小野谷〉梅木道代
〈嘉穂地区民生委員児童委員協議会〉藤原美惠子、齊藤トミ子、伊藤幸雄、伊藤美代子、原田富子、中島暁子、中村笑子、武田貴久子、岩崎洋子、樸ひろ子、川原久美子、中原光江、芹野彌生、川上修子、川原田美好、石川穎子、松隈ミサコ、吉貝博己、秋山寛江、森謙策、籾井泰彦、花田眞也、坂口小夜子、江藤芳雄、江藤伸、畑貴美江、江藤蓉子、大里盛人
〈愛媛県〉木許芳子

今月のえがお

最近えがおになった出来事を教えてください！

☆最近えがおになった出来事について、2名の方にインタビューしました☆

杉村 健太郎さん

先日、中学校の同窓会がありました。7年ぶりに再会した友人たちとにぎやかな時間を過ごし、笑顔になりました。次に会えるのは何年後になるか分かりませんが、楽しみにしています。

松岡　幸代さん

30年前にベトナム出身の男性と知り合い、今でも息子のように可愛がっています。先日、その方が今住んでいるグアムに、10日間ほど会いに行ってきました。一緒に食事をしたり、海に行ったり、とても幸せな時間を過ごすことができました。人生の中で、今が一番楽しい青春時代です。

野菜の皮や木の枝を使った草木染に感激

8月25日(日)に開催した碓井千歳会館染物教室には、小学生2名、大人8名が参加され、講師の藤島清美さん(草木染友の会)の指導のもと、草木染に挑戦しました。草木染は、野菜の皮、木の枝や葉などの身近な素材を煮出して作った染液に布を浸して染めるもので、素材や浸す時間の違いで色が変化するところに面白さがあります。参加者の皆さんは、まず、「絞り」と呼ばれる染め方を学び、真っ白なハンカチを三角形や四角形に折り、模様を付けるために木の板で挟んでいきました。

その後、藤島さんが前もって準備をされていた玉ねぎの皮の染液に30分浸すと、ハンカチは淡い黄色に染まり、一度取り出して板の向きを変え、蘇芳(すおう)の木の染液にまた30分浸すと、淡いピンク色に染まり、様々な模様が付いたオリジナルのハンカチが完成しました。出来上がったハンカチを手に取った参加者の方からは、「模様を考えながら木の板で挟むのが大変でしたが、面白い柄が付きました。」との感想が聞かれたほか、草木染の面白さに触れたことで、「草木染をもっと学んでみたい。」といった声も出るなど、とても充実した時間となりました。

指定葬祭場紹介　きど葬祭やまさ碓井斎場

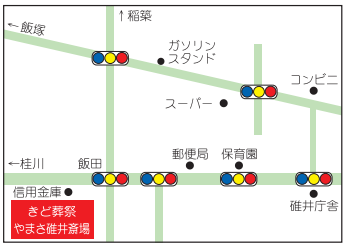
嘉麻市飯田 214-1
☎ 62-4499

弊社は、昭和57年の創業以来お客様からの信頼をいただき、実績を重ね、おかげを持ちまして、嘉麻市、飯塚市、田川市に5ヵ所、桂川町に1ヵ所の斎場を運営させていただいております。「あなたの街のやまさ斎場」を合言葉に、地元の皆様に愛され葬祭業をつうじて、地域社会に貢献していきたいと考えております。

1、おもてなしのある心の対応

2、真心・奉仕の心　　3、安心・安全・快適な利用環境の提供

サービス目標として3点を掲げ、少しでもご家族さまの心情に配慮した接遇をし、安心して最後の時間を過ごしていただけますよう、心を込めて施行してまいりたいと思っています。



葬儀申込み時に、「嘉麻市社会福祉協議会の指定でお願いします」とお伝えください。葬儀にかかる費用の一部について割引を受けることができます。

嘉麻市社会福祉協議会指定葬祭場は、きど葬祭やまさ碓井斎場を含め、市内に8カ所あります。

ひさつね会館	☎52-0758	いすや会館	☎57-4444
セレモニーホールおおつか	☎52-1212	かほ葬祭　あじさい会館	☎62-5566
善光会館　稲築会場	☎83-5000	おかむら葬祭　岡村会館	☎42-4420
飛鳥会館　南斎場	☎(0120)42-2241		

ふるさとへの手紙 No.92

「故郷について」

東京都小金井市在住
瀬沼　健三郎さん
（66歳）
大隈町出身

我が故郷、大隈町を離れてはや50年の月日が流れますが、「♪馬見の山や嘉麻川の～」という大隈中学校の校歌に代表される故郷は、一生忘れることのできない想い出の土地です。

人生の中で最も多情多感な年頃を過ごした故郷は、遠い所から振りかえるとき、大変感慨深いものがあります。九州での22年間の生活後、静岡で5年間、いわきで30年間、直近の10年間は単身赴任で仙台、横浜、東京、米沢、東京とサラリーマン生活を継続していますが、22年間の福岡での生活がその後の人生の基盤を創り上げたものと思っています。今夏の猛暑の中、甲子園全国高校野球大会が開催されましたが、やはり気になるのは九州勢の活躍動向でした。

福島県のいわき市に長く住んでいた関係で、私の第二の故郷になっております。東北大震災の時には、故郷の皆様に大変心配をおかけし、この場を借りまして御礼を申し上げます。幸い、いわきの自宅は山側にありましたので、津波の災害は免れることができました。ただ、福島原発の影響で人口は相当少なくなっております。

故郷を振りかえるとき、小学校や中学校時代に嘉麻川で泳いだりもぐって魚を捕ったりしたことや、古処山にキャンプで中学の友達と登ったりしたことは鮮明に記憶していますが、高校や大学の想い出のほうが、記憶に薄いような気がします。今現在は大病を患ったことがないので、身体はすこぶる健康です。会社の同僚と飲みに行き、カラオケで故郷を想う歌を歌ったりして元気に過ごしています。3年ほど前に還暦後の中学の同窓会に参加した際は、大変なつかしく昔のことが頭の中をかけめぐりました。また、今年も10月に開催されるとのご連絡を受け、参加したく考えております。

今後の故郷の皆様のご健康とご活躍を祈念いたしまして、筆を置きたいと思います。

コラム 交差点

萩市災害支援 ボランティアの感想

8月28日（水）、山口県萩市須佐地区へ災害支援ボランティア活動に、参加させて頂きました。萩市は、7月末の豪雨により大きな被害を受けられ、心身共に不安な日々を送られています。参加するに当たり自分自身お手伝いができるだろうか、又若い人たちの足を引張ってしまうのではないかと、いろいろ悩みました。職員の方が「年齢も幅広く、お声かけしています。」という一言で気持ちが楽になり、「じゃあ、行きましょう。」と、長靴・ゴム手袋・マスク・着替え持参、最小限にまとめたつもりでしたが、バッグひとつでは足りないくらい、特に女性は。

萩市に着き、班別に分かれ地元のバスで被災地区へ。現地に着き被害の大きさに掛ける言葉も見つからないまま、すぐにリーダーの指示のもと、「男女15名」、崖崩れの土砂撤去、土嚢袋に泥を詰め込み急な坂を下り所定の場所へ運ぶ人々、裏山からの渋水で土砂がこびり付いた床上・床下・サッシの掃除。3時間暑くて慣れない作業でも仲間がいてくれたおかげで何とかやれました。又誰ひとり音をあげることなく一応終了になり、リーダー共々挨拶を済ませ、現地を後にしました。初対面の時とは違い、家主さんの表情がずいぶん和らぎ、優しい笑みが私には感じられました。受け入れてくださったのかなあ、それが一番嬉しかったし、忘れてはいけないと思いました。

あっという間の一日、いろいろな「人への思い」と、疲れを乗せて夜の外環、バスは帰路へと走る。空にはキラキラ星、予定通り午後8時稲築地区公民館に到着。最後になりましたが、お世話になった職員の皆様、バスの運転手さん、どうもお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

（熊ヶ畑　平嶋ミユキ）

災害時にたくさんの方に情報を発信できるように、facebookページを、平成25年8月に開設しました。災害支援活動報告や日々の出来事を掲載しています。みなさんの、「いいね！」をお待ちしています。**https://www.facebook.com/kama.swc**

★編集後記★

萩市災害ボランティアセンターでの嘉麻市のボランティアの活躍に、贈られた地元の方の感謝の言葉に思わず涙ぐんでしまいました。困っている方にそっと手を差しのべることができるボランティアの方たちの優しさにふれ、いろんなことを学んだ支援活動でした。**（きはら）**

No.87 の今月の1冊で紹介した本「居場所を探して累犯障害者たち」がきっかけで、公開研修会を開催することができました。前田さんの熱い思い、貴重なお話を聞くことができ本当によかったです。本との出会い、、、大切だなぁと改めて感じました。**（みぞくち）**

認知症に関する勉強会の中で行った茶話会では、参加者の方からの疑問や悩み、不安に頷かれる場面がたくさんありました。在宅介護を続ける上で、共感してくれる仲間がいることはとても大切だと思います。

在宅介護者の集いは、仲間づくりの機会にもなっています。毎月第二木曜日に開催していますので、ぜひご参加ください。**（たけがわ）**

今月の一冊で紹介した『ぼくとクマと自閉症の仲間たち』の最後には、著者が子どもの頃から書き溜めてきた詩が収録されています。さまざまな心情を真っ直ぐな言葉で謳った詩たちは、とても魅力的で心惹かれるものがあります。多角面から楽しむことができる一冊だと思います。**（かわかみ）**

災害ボランティアに初めて参加してきました。最初は不安でいっぱいでしたが、無事に作業が終わり、ものすごい達成感がありました。

災害支援の活動の様子は、ブログやFacebookでも紹介しているので、ぜひご覧ください★☆ **（なかしま）**

編集後記を書いている本会職員の似顔絵も募集しています。
絵が得意な方、ぜひ、ご協力をお願いします。

社協だより「えがお」は、赤い羽根共同募金の配分金で発行しています。